

未来投資会議（第16回）後の
茂木経済再生担当大臣記者会見要旨

- 日時：平成30年5月17日（木）16:21～16:28
- 場所：中央合同庁舎8号館1階S101・103 会見室

1. 冒頭発言

本日の未来投資会議の概要についてご報告いたします。

本日は、AI時代に対応できる人材の育成策、そして次世代のヘルスケアシステムの構築、地域の生産性革命としての林業の成長産業化。この3つのテーマについて議論を行いました。

議論の中で、金丸議員から、AI時代に対応すべく「教育を変える」「企業を変える」ための政策について、また、構造改革徹底推進会合の翁委員から、医療・介護の提供から生活サポートまで全体最適を図るための政策についてご提言がありました。関連して、AIの専門家や先端的な取組を行っている病院の方からも現場の実態を含めた説明をいただき、議論を深めることができました。

本日の議論を整理しますと、

AI時代には、AI・データを理解し使いこなせる力、特に理数教育が重要になるけれど、日本では、義務教育終了段階においては、この理数能力は世界でもトップクラスであります。その後十分に伸ばされておらず、高等教育等の見直しが必要であること。

また、団塊世代全員が75歳以上となる2025年に向けて、要介護者や認知症患者が急増することから、病院内の治療だけに頼らず、オンライン医療を含め、安心して在宅で医療・ケアを受けられる仕組みを構築する必要がある。

こういった議論が行われました。

最後に、総理から発言がありました。ポイントを申し上げますと、

大学入試への「情報」科目の追加、「AI等の学位プログラム」創設など、Society 5.0にふさわしい教育システムへと改革を進める。

医療・介護について、個々人が医療や介護のデータを有効活用できる環境を整備するとともに、服薬指導を含めた「オンライン医療」の充実に向けて、次期以降の診療報酬改定、所要の制度的対応も含めて、ユーザー目線で、現状を更に前進させる取組を進める必要が

ある。

こういった内容でありました。
会議のポイントは以上であります。

2. 質疑応答

(問) 今回の3つのテーマを含めて、本日の会議までに各論が多く出ましたけれども、改めて6月に向けて進めていく成長戦略のポイントを大臣から教えてください。

(答) これまで、具体的なテーマで申し上げますと、自動運転、デジタルガバメント、本日のAI人材、様々な議論を行ってまいりましたが、昨年12月に取りまとめた「経済政策パッケージ」を踏まえ、2020年までの「生産性革命・集中投資期間」における取組の更なる強化や、その先2020年以降の日本経済の姿、世界経済の姿を見定めた上で、スピード感を持って進めていく戦略が必要であると思っております。

その中核となるのは、AI、ビッグデータ、IoT、さらにロボットなどの第4次産業革命のイノベーションを社会実装し、人手不足、高齢化等の社会課題の解消につなげていくことでもあります。そして、地域においても、中小企業の投資促進を通じて生産性革命を実現していくことが必要であると思っております。

さらに、人間の脳の一部の機能をAIが補完して代替する。そして、筋肉の一部をロボットやドローンが代替する。そして、神経系統をIoTが担っていく。こういう時代になってくるのではないかと考えております。

これまで未来投資会議で取り上げた自動運転やデジタルガバメント、今回取り上げたAI時代の人材育成や次世代ヘルスケアシステムの構築などを含めて、世界に先駆けてSociety 5.0の社会実装を実現する戦略としていきたいと思っております。

シリコンバレーのモデルに無い、深センのモデルにも無い、日本のモデル。将来の姿はどうあるかということを描かなければいけないと思っております。

(問) 総理からの発言で、大学入試への「情報」科目の追加についてですが、今現在もセンター試験には情報関係基礎という科目がありますが、非常に受験生自体に限られている。今後検討する情報、新しい科目は位置づけとしては国語や英語などの主要な科目としての位置づけというイメージでしょうか。

(答) その点については、先ほども申し上げたとおり、林文科大臣のほうで検討を進めてほしいということでありましたから、林文科大臣にお聞きください。